

## 中国の成長は鈍化、インフレ率が上昇 アジア開発銀行予測

[ 香港、2008年4月2日 ] アジア開発銀行 ( ADB ) が本日発表した『[アジア展望 \( ADO \)](#)』  
[2008年版](#)によると、中国の経済成長率は、国内金融政策の引き締めが予想されるほか、外需が弱まることなどから、2008年および2009年ともに約10%にとどまる見通し。

ADB の基幹年次経済刊行物である同報告書では、2007 年に 11.4%と過去 13 年で最も高かった中国の経済成長率は 2008 年に 10%、2009 年に 9.8%となるものと予測している。

しかし国内総生産 ( GDP ) に占める国内消費の比率は 2008 年に増加するものとみられ、また国内投資が経済成長の牽引車となっている点もこれまでと変わらない。

同時に、同報告書は食糧価格の上昇が中国経済にインフレ圧力をもたらす可能性があると警告している。消費者物価上昇率は 2007 年の 4.8%に対し、2008 年は 5.5%程度、2009 年も 5%前後に上昇するものと予測している。

こうした見通しに関し、ADB チーフエコノミストのイフサル・アリは、「急激な金融引締め政策、不確実な世界経済見通し、および銀行貸付の抑制によって、中国の経済成長は潜在力に見合ったレベルまで調整される可能性がある」としている。

貿易黒字や資本収支黒字の増加が過剰流動性をもたらすことから、為替当局は人民元の対ドルレート上昇を容認するものとみられる。

2007 年に 26%だった輸出の伸びは、2008 年は 19%、2009 年には 18%に鈍化するとみられるが、その要因としては、主要輸出先国の需要が停滞していることや輸出優遇税制の縮小が挙げられる。一方、輸入は、人民元高や輸入関税引下げをはじめとする輸入促進政策に伴い、2008 年、2009 年ともに 20%の伸びを示すものとみられる。

中国の貿易黒字幅は 2008 年から 2009 年にかけて減少すると予測している。2008 年の北京オリンピックに伴う増収が貿易外収支赤字を相殺する一方、増加する外貨準備の運用益や海外投資収益の増加が、移転収支黒字を増大するものと予想しているが、2007 年に約 11%だった対 GDP 経常収支黒字は 2008 年に 9.9%、2009 年は 8.6%に減少するとみられる。

今後の見通しについて同報告書は、中国が高成長率を維持しつつ投資と輸出への過剰依存体質から脱却するには、中国政府は3つの不均衡を是正する必要があるとしている。アリ・チーフエコノミストは「内需を拡大し、エネルギー・環境問題に対し取り組み、地方と都市の所得格差拡大に歯止めをかける必要がある」と述べている。

同報告書は、中国政府が「和諧社会」（＝調和のとれた社会）をめざして新たな一步を踏み出したとしつつも、とりわけ民間企業における高い内部貯蓄率、「官」主導の地方開発、安価なエネルギー価格と不十分な環境対策、さらに戸籍制度の不備などの経済・社会面での不均衡是正は大きな課題としている。

---

**お問い合わせ先**

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: [amochizuki@adb.org](mailto:amochizuki@adb.org)

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>